

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 学ぶ喜びを実感し、自ら学び続ける力を身に付けた子どもの育成
- 自ら学び、発信し、互いを高め合う教師集団 —

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 指導教諭 脇本 正久	委員 校長 山口 詳二 研修主任・教務主任 脇本 正久 特別支援コーディネーター 河野奈津子 活用部 河野 雅代	教頭 村松 由文 養護教諭 金山 真弓 基礎・基本部 青木 真美 主体性部 河野奈津子
--------------------------	--	--

校長

山口 詳二

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な学習課題に対し、多くの児童が積極的に取り組むことができている。 ●学習規律が身につけておらず、粘り強く取り組むことが十分でない児童がいる。	・人の話をしっかりと聞き、学習内容を習得しようと粘り強く取り組むことができる。 ・川島小学校のユニバーサルデザイン(学習規律)を実践することができる。	・川島っ子チャレンジプロジェクト(SWPBS)を軸として、話を聞く態度を定着させる。 ・話す・聞く活動を充実させ、多様な考え方があることを知る機会を増やす。 ・児童が学んだことを振り返り、自分の言葉で表現する場を増やす。 ・川島小学校のユニバーサルデザインを徹底することで、学習規律の定着を図る。	・振り返りの場面では、自分の言葉で表現できている児童を紹介するなどモデルを示す。 ・ユニバーサルデザインの再確認と徹底を行い、話し方・聞き方の学習規律を定着させた上で話したり聞いたりする活動を行うようにする。	・話す・聞く活動を行うことで、友達の考えを聞き、自分の考えを深化させている児童が見られ始めた。 ・学習規律の定着が見られる児童が増えたが、十分でない児童もいる。 ・学習形態を工夫して、児童が自分の言葉で表現する場を増やすことができた。	・すべての児童が人の話を落ち着いて最後まで聞くことができるように、正しい聞き方についての指導を継続する。 ・ユニバーサルデザイン(学習規律)について再考して共通理解を図り、全校で取り組む。

【本校の取組状況の把握について】

全職員による授業参観や実践報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○積極的に発言できる児童も増えてきた。ペア・グループ学習などの限られた場面では、活動に参加し表現する児童も多い。 ●伝えたいことを相手に伝えるために、適切な言葉を使い表現することが難しい児童もいる。 ●課題に取り組むにあたり、根拠を元に考えを深めていくことが苦手な児童が多い。	・課題や問われていることに対して、自分の考えをノートやワークシートに書くことができる。 ・友達の考えや意見を聞き、自分の考えと比べたり、関連付けたりして、適切に表現することができる。	・タブレットを活用して、考えや意見を交流させる。 ・シンキングツールを使ったり、書き出しを示したりすることによって、自分の考えを表現できる機会を増やす。 ・言葉集めや辞書引き・読書を充実させ、語彙を増やす。	・タブレットに加え、ホワイトボードや付箋等を活用して、考えや意見を交流させる場を増やす。 ・計画的に言葉集めや辞書引き・読書をする時間を設定する。	・タブレットを活用する機会は増えてきているが、辞書を活用する機会が減ってきている。 ・課題や問われていることを読み解く力が不足している。 ・友達の考えや意見を聴くことができるようになったきた。 ・自分の考えの根拠を示して説明できる児童が少ない。	・シンキングツールについての活用研修を行い、授業に活用する。 ・課題や問われていることを読み解く力を定着させるために語彙力を増やす。 ・自分の考えがどのように変化したのか思考の過程を振り返る機会を増やす。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に真面目に取り組むことができる児童が多い。 ○自ら進んで読書をする児童が多い。 ●授業で自分の意見や考えを発信したり、他者の意見を取り入れて考えを深めたりすることが、苦手な児童が多い。 ●発達段階に応じた読書ができている児童が少ない。	・自ら課題を持ち、課題解決をすることができる。 ・自他の考えのよさを見付け、自分の思いや考えを深めることができる。 ・進んで本に親しみ、発達段階に応じた幅広いジャンルの本を読むことができる。	・一人一人が主体的に学べる教材や授業展開を充実させ、課題解決を図りながら、考えを深めさせる。 ・ICT機器の活用方法を工夫し、対話的な学びを目指す。 ・読書への意欲を高めつつ、図書室や学級文庫の図書を精選し、図書館とも連携することで、読書環境を充実させる。	・ICT機器に加え、ホワイトボードやノートを活用し、対話的な学習を深めさせる。 ・読書タイムの時間を確実に確保し、内容も充実させることで、読書への意欲を高めさせる。	・ICT機器、ホワイトボードやノートを積極的に活用した授業を展開した。 ・ペア学習やグループ学習を通して、自他の考えのよさを見付けたり、自分の思いや考えを話し合わせたりした。 ・図書室や学級文庫の図書を精選し、図書館とも連携することで、読書環境を充実させた。そのため、児童の読書への意欲を高めることができた。	・引き続き ICT 機器の活用方法について工夫や改善を行う。 ・授業展開や授業内容を充実させることで、対話的な学びを目指す。 ・図書室や学級文庫の図書を、発達段階に応じた図書に分類したり、教師の推薦する図書を並べたりして、個に応じた読書環境を整える。

令和5年度 学力向上ロードマップ

